

はじめに - 都市交通問題への興味 -

宇都宮大学に入学し、ここ宇都宮に住み始めてからもうすぐ4年が経とうとしている。そして卒業を機にこの4年間住んだまちを去ろうとしている。そこで私は卒業論文を書くにあたって漠然としてではあるが、宇都宮に関わるテーマ設定をもとに書きたいと思っていた。

4年前、それまで北海道に住んでいた私が宇都宮に初めて来た時に思った第一印象はとにかく車が多いまちだということであった。そして実際に宇都宮に住み生活することで、買物をするにも、何処かに出掛けるにも車が無ければ生活することが非常に不便なまちであることを実感した。当時の移動手段は主に自転車で移動していたがその時も市内のいたる所で車による交通渋滞が発生していた。また雨天時において外出する時にはバスを用いて移動していたが時刻表通りにはなかなかバスが到着せず、かなりの余裕を持った時間設定を立てて外出しなければ予定の時間に間に合わなかった。そのためなるべく雨が降っていた時も到着時間を予測しやすい自転車で移動していた。その様な時にもっと公共交通機関が充実して、なおかつ定時性が確保されていればわざわざ自動車を使うことによる渋滞が少しでも減り、また自動車を使うことができない若年者や高齢者にとっても、もっと便利なまちになるのではないかと思った。

そのような考えを持っているのは私だけではないことが分かった。宇都宮市役所企画部広報課が行った、「第35回市政に関する世論調査」¹⁾によると、「あなたのお住まい付近で力を入れて欲しいことは何ですか」という設問に対する回答では、違法駐車防止や歩道整備等の「交通安全対策」(30.1%)に次いでバス・鉄道・新交通システム等の「公共交通網の充実」(24.0%)を望んでいた。そのような中で宇都宮市役所が中心となって主に交通渋滞、環境問題、そして高齢社会への対策として新交通システムを導入しようとしていることを知った。

そこで私は宇都宮で導入しようとしている新交通システムを卒業論文のテーマに設定し、まず新交通システムは既存の交通システムとどのような点が違うのかを述べたい。その中でも宇都宮市で導入を検討している”Light Rail Transit”(LRT)に的を絞り、導入によるメリット、そして導入に対する日本と海外の行政による補助の相違を述べる。また、実際にLRT(日本国内ではLRTを導入している都市は今のところ存在しないので”Light Rail Vehicle”(LRV)という車両を運行させている都市)を導入している日本国内、海外都市の現状をまとめた上で、宇都宮におけるLRT導入への経緯と現状、今後の展望、そして今までに実施した渋滞対策を述べ、宇都宮における新交通システム導入への求められる課題とそれに対する提案を論じていきたいと思う。

¹ 2002年7月1日～31日、満20歳以上80歳未満の宇都宮市民3356人に郵送により実施。
回収率54.2%(1820件)。